

Uila評価・導入準備資料 ver2.0

準備

- vCenterにアクセス可能な端末
 - vSphereクライアントまたはWebブラウザ(Chrome)
- Uila OVAファイル(UMASおよびvIC)
 - 東陽テクニカWEBサイトから、作業用PCにダウンロードください。

<https://www.toyo.co.jp/ict/contents/detail/id=14679>

インストール要件①

- VMware5.5以上を利用している環境
- Hyper-V Windows2012R2を利用している環境
- 1つ以上のvCenterとESXで構成されている環境
- 以下3つのモジュールをデプロイすることが可能な空き容量
 - **VM数が1000以下を前提とするスペック**
 - vIC
 - メモリ24GB(うち12GB予約)、ストレージ24GB、CPUx4
 - vCenter経由にてESXにデプロイ
 - vCenter1台につき1つのvICを利用
 - vST
 - メモリ1GBxvSW(監視対象)、ストレージ3GB、CPU1(監視対象SW2以上CPU2)
 - UMAS設定画面より監視対象ESXにデプロイ
 - トランザクション解析を有効でメモリ1GB(1vSW)、メモリ1.6GB(2vSW)、メモリ2GB(2vSW)
 - UMAS
 - メモリ48(うち32GB予約)、ストレージ①1TB②25GB、CPUx4
 - vCenter経由にてESXにデプロイ

※①データ領域 ②システム領域

インストール要件②

• VM数が1000以上2000以下の場合

- vIC
 - メモリ32GB(うち16GB予約)、ストレージ24GB、CPUx4
- vST
 - インストール要件①参照
- UMAS
 - メモリ64GB(うち48GB予約)、ストレージ①2TB②25GB、CPUx4 ※①データ領域 ②システム領域

• VM数が2000以上5000以下の場合

- vIC
 - メモリ48GB(うち24GB予約)、ストレージ24GB、CPUx4
- vST
 - インストール要件①参照
- Web UMAS
 - メモリ48GB(うち32GB予約)、ストレージ①800GB②25GB、CPUx4 ※①データ領域 ②システム領域
- DB UMAS
 - メモリ48GB(うち32GB予約)、ストレージ①5TB、CPUx4

※データ領域は1000VMで3ヶ月間で800GB消費します。またデータ領域の拡張・縮小はインストール後に行うことが可能です

必要条件

- UMAS、vIC、vSTについて
 - インターネットに接続可能であること **推奨**
※アップデートを行う場合あり
 - 相互に通信可能であること **必須**
 - IPアドレス、マスク、GWまたはDHCP **必須**
 - DNS **推奨**
※ない場合vICの/etc/hostsファイルの編集で対応可能
- NTPアドレス
- vCenterログイン情報 **必須**
 - ID & パスワード(アドミニストレータ権限)

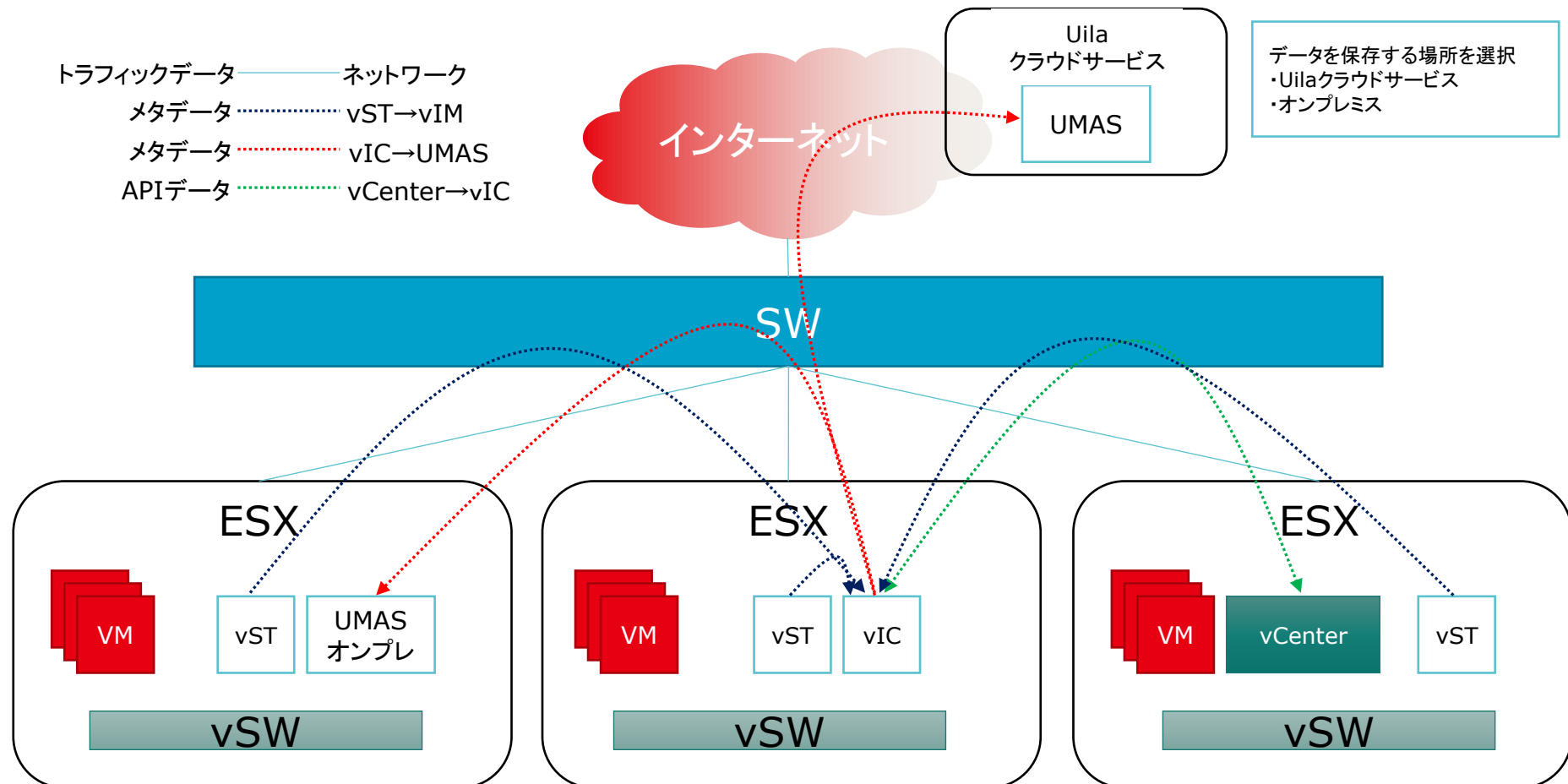
アラーム通知機能

- Eメール通知
 - SMTPサーバアドレス
 - 通知Eメールアドレス
- Syslog通知
 - サーバアドレス
 - サーバポート
 - プロトコル
- SNMP Trap通知
 - 送信先アドレス
 - 送信ポート
 - SNMPバージョン
 - コミュニティ名

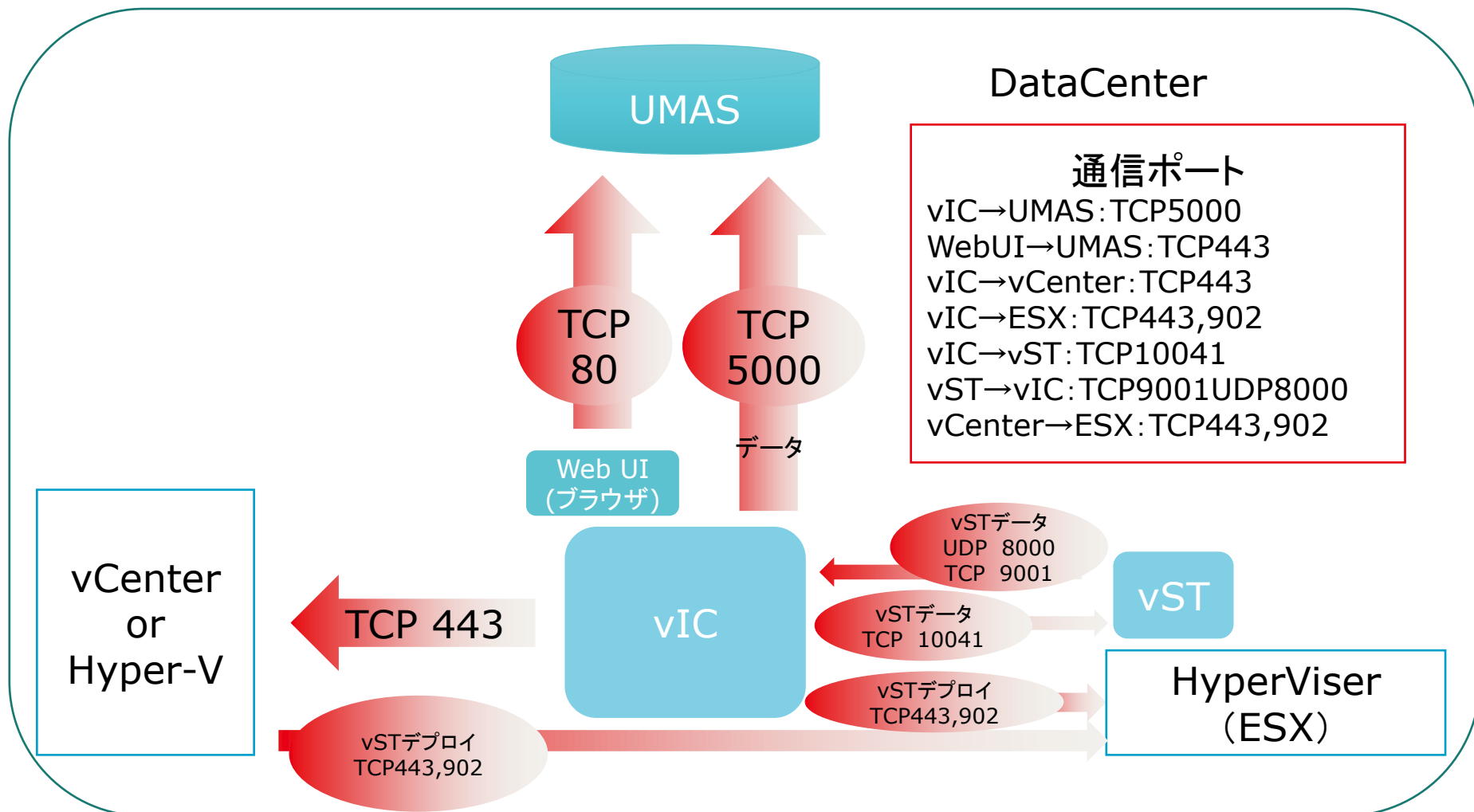
必要に応じてご用意ください

構成例

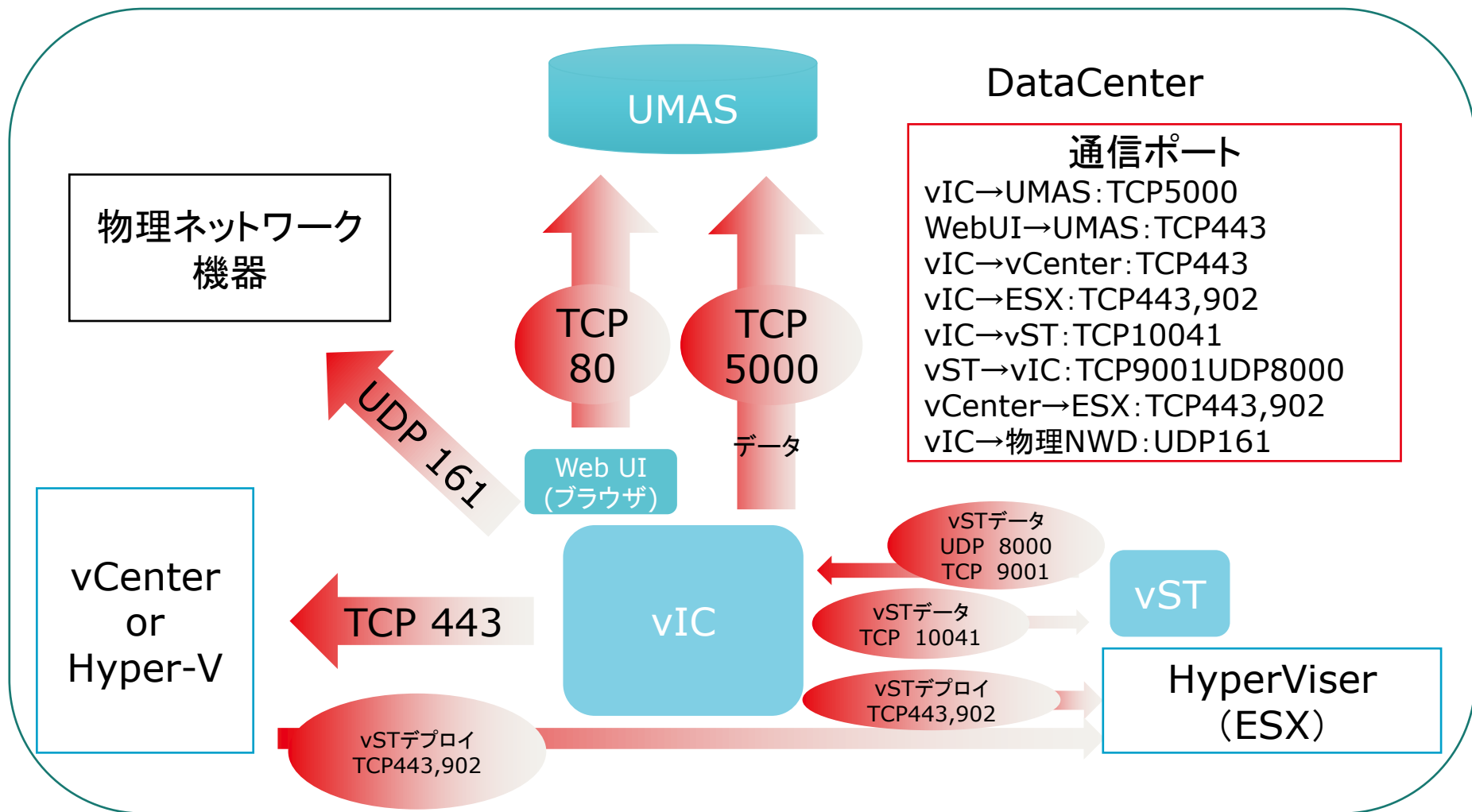
トラフィックデータ — ネットワーク
メタデータ vST→vIM
メタデータ vIC→UMAS
APIデータ vCenter→vIC



各通信ポート



各通信ポート(+NDMライセンス使用時)



vST構成について

